

能界展望 2019年（平成31年／令和元年）

深澤, 希望 / FUKAZAWA, Nozomi

(出版者 / Publisher)

The Nogami Memorial Noh Theatre Research Institute of Hosei University /
法政大学能楽研究所

(雑誌名 / Journal or Publication Title)

NOGAKU KENKYU : Journal of the Institute of Nogaku Studies / 能楽研究

(巻 / Volume)

46

(開始ページ / Start Page)

255

(終了ページ / End Page)

267

(発行年 / Year)

2022-03-25

能界展望 二〇一九年（平成三十一年／令和元年）

深澤 希望

はじめに

平成最後の年、二〇一九年を振り返りたい。さまざまな意味で、時代の大きな変わり目と言える年であったように思う。以下、文中では敬称を省略させていただいたことをお断わりしておく。

五月一日、新天皇即位に伴い「令和」と改元された。これを祝し、国内は東京・神奈川・京都・大阪、さらに海外ではニューヨークと、各地で〈大典〉が上演された（詳細は257頁）。そもそも〈大典〉は、藤代禎輔（下イッ文学者）作詞、二十四世観世左近作曲で、大正天皇即位大典を記念して一九一五年に初演された演目で、観世流のみが現行曲とする。大典奉告の宣言を受け、平安神宮を訪れた勅使たち（ワキ・ワキツレ）の前に、天女（ツレ）と天津神（シテ）が出現し、聖代を言祝ぐという粗筋である。横浜能楽堂の企画公演では、令和の時代に上演するにあたり、西野春雄が監修・補綴をつとめた。企画に携わった経緯ならびに「大典 令和版」の詞章が『能楽研究』44号にまとめられている。また、第七十回京都新能では、

〈大典〉を改作した作品である〈平安〉が、改元奉祝と七十回を記念して四十三年ぶりに上演された。〈平安〉の初演は、一九六一年の平安神宮新能で、台本制作・演出は片山博通の手によった。くわえて、即位礼正殿の儀が執り行われた十月二十三日には、参列した外国元首らをもてなす内閣総理大臣主催の晩餐会が開かれ、〈三番叟〉野村萬斎（歌舞伎・文楽との共演）、観世宗家父子による能（石橋）が演じられた。

新天皇即位奉祝に湧くと同時に、翌年に迫った二〇二〇オリンピック・パラリンピック（以下、「オリパラ」と略称）に向けての動きも活発になっていた。

一月二十三日には、「能楽フェスティバル2017—2020 第四回シンポジウム」が開催された。それに先立ち、同日、能楽協会と日本能楽会は会見を開き、本年開催の「ESSENCE能」によって次年への弾みをつけ、オリパラ期間中には「能楽フェスティバル2020 日賀寿能（仮称）」を開催すると発表した。また、その後、七月三十一日の会見では、日賀寿能の名称が「東京オリンピック・パラリンピック能楽祭」と決まり、組織委員会が主催する「東京2020

NIIPPONフェスティバル」の「共催プログラム」に採択されたことが報告された。

さらに、能楽協会は、七月十八日に、ICT(情報通信技術)を利用しファン拡大を目指すべく、富士通とパートナーシップ契約を締結した。《バリアフリー対応》《多様性》《幽玄》《多言語対応》を各回のテーマに掲げ、能楽の魅力を凝縮してアピールする「ESSENCE能」(7月31日、8月4日の二日間)で四公演。於国立能楽堂)において、ICTの実証実験を行った。《バリアフリー対応》の回では、「Ortemaオンテナ」(音の特徴を、振動と光の強さに変換して、伝達するインターフェース。髪の毛・耳たぶ、または衿元・袖口に身につける)が、《多言語対応》の回では「RETSSA Display」(レティッサディスプレイ)(眼鏡のように装着すると網膜に英語字幕を投影。舞台と同時に字幕を見ることができ)が用いられた。

字幕システムの充実は他でも見られ、京都観世会館では、六月二十三日の例会より「能サポ」が導入された(京都観世会、檜書店、イヤホンガイド、エヴィクサーによる事業)。「能サポ」は、初心者を中心とした日本人・訪日外国人・聴覚障がい者を対象とする多言語字幕解説サービスで、専用端末に詞章・日本語解説・英語解説の3チャンネルの字幕を表示する。

この他の新たな取り組みとして注目されたのが、東急文化村主催のBunkamura三十周年記念「渋谷能」におけるクラウドファンディングである。友枝雄人(シテ方喜多流)、成田

達志(小鼓方幸流)を世話役に、三十代、四十代の若手能楽師をシテとした催しで、全七回の公演が行われた(詳細は258頁)。観客もまた若い世代をターゲットとした企画で、二ヶ月弱で二百万円の目標を達成し、クラウドファンディングをきっかけに新たな客層を開拓できたと言う(『能楽タイムズ』令和2年3月号の能楽対談(座談)第613回)。

続いて、能楽堂に目を向ける。宝生能楽堂は四十周年を迎え、記念誌『能楽宝生流』(平成31年3月)を刊行した。舞台(能楽堂)の変遷、流儀の歴史、宝生流の面装束、名人、職分紹介、現在の活動など、歴史的な事柄から現代の活動までを紹介する内容。また、一九三五年竣工の大槻能楽堂は、一九八三年に行った前回改修から三十五年を経て、再び大規模改修工事を実施し、七月～十二月にかけて休館した。それに先立ち、四月には「大槻能楽堂改修勸進能」を開催し、大槻文蔵が舞い納めの(安宅勸進帳・延年之舞)を披露した。

二〇一九年は、新天皇即位奉祝や、オリパラに向けたさまざまな動きによつて、能界全体が活気を帯びていた。しかし、この後に待ち受けていたのがコロナ禍であり、二〇二〇年に予定されていた多くの催しが中止・延期となった苦境を思い出すと辛い。これを執筆している現在も、オミクロン株による感染拡大(第6波)の最中にある。コロナ禍以前の、二〇一九年の生活には、なかなか戻れそうにない。いまだ渦中であつて見通しは不透明であるが、新しい環境下での演能に対応しながら、能界が前進を続けていることは確かである。

以下、調べ得た主な舞台をいくつかの項目に分け、時系列に掲出する。個人の還暦・古希・独立記念等を祝う会、および故人追善の会は、多数あったが省略させていただいた。また、重要な公演の遺漏もあると思われるが、ご容赦願いたい。

さまざまな催し

【新天皇即位奉祝能】

◎住吉大社「卯之葉神事」御即位奉祝「大典」

5月6日。住吉大社吉祥殿。素謡(神歌)井上裕久、仕舞(高砂)生一知哉、仕舞(梅枝)塩谷恵、能(大典)山階彌右衛門。

◎第70回京都新能

6月1日。平安神宮。能(平安)井上裕久、能(童子洗小町)田茂井廣道、狂言(福部の神勳)茂山忠三郎、能(石橋俊寛之式)今井清隆。

◎御代替り奉祝 賀茂御戸代能

7月1日。賀茂別雷神社。御戸代会神事、素謡(神歌)井上裕久。薪能、素謡(神歌)井上裕久、仕舞(大典)井上裕久、仕舞(屋島)大江信行、仕舞(東北クセ)橋本雅夫、仕舞(小袖曾我)橋本擴三郎・勝部延和、仕舞(狸々)吉田潔司、狂言(末広)茂山千五郎、能(鶴亀)井上裕久。

◎横浜能楽堂特別企画公演「大典 奉祝の芸能」

第一日・6月2日は琉球舞踊。第二日・7月20日。尺八古典本曲「鶴之巢籠」神令、地歌「難波獅子」藤本昭子、箏曲「五月晴」萩岡松韻・堅田喜三久、復曲狂言(鷺)山本則秀、

能(大典)片山九郎右衛門。

◎御即位奉祝能 大典 山階会

10月20日。観世能楽堂。連吟(童子洗小町)、仕舞(難波)木月章行、仕舞(岩船)武田祥照、(敦盛)段之舞(山階彌右衛門、仕舞(梅クセ)山階弥次、復曲狂言(鷺)山本則秀、(大典)山階彌右衛門。

◎内閣総理大臣夫妻主催晩餐会

10月23日。ホテルニューオータニ。狂言・歌舞伎・文楽(三番叟)野村萬斎・市川海老蔵・吉田玉男。能(石橋)観世清和・観世三郎太。

◎御大典奉祝記念事業 天神能

10月27日、北野天満神社(神戸市)。新作能(北野天満)上田拓司。

◎ジャパン・ソサエティ公演 能「大典」

11月14～16日。ジャパン・ソサエティ(ニューヨーク)。能(大典)片山九郎右衛門、狂言(蝸牛)山本則俊・山本則重・山本則秀(日替わりでシテを勤める)。

◎令和改元奉祝 井上松交会

11月30日、能楽堂嘉祥閣。素謡(神歌)浦部好弘、素謡(田村)吉浪壽晃、仕舞(高砂)橋本擴三郎、仕舞(屋島)橋本光史、仕舞(羽衣キリ)佐伯紀久子、仕舞(鞍馬天狗)吉田篤史、素謡(梅)橋本雅夫、素謡(小鍛冶)吉田潔司、能(大典)井上裕久。

【2020東京オリンピック・パラリンピック】

◎能楽フェスティバル2017―2020 第四回シンポジウム／2020東京オリンピック・パラリンピックへ向け、能楽の未来を展望する／

1月23日。国立能楽堂。狂言(萩大名)野村万蔵、半能(絵馬女体)香川靖嗣。パネルディスカッションは、観世清和、宝生和英、観世鍔之丞(能楽協会理事長)。司会は野村萬斎(オリンピック・パラリンピック開閉会式チーフ・エグゼクティブ・クリエイティブ・ディレクター)。

◎ESSENCE能(見どころ)ぎゅつと凝縮・能楽アンソロジー

会場はすべて国立能楽堂。①バリアフリー対応(日・英字幕付)・・・7月31日。狂言(蝸牛)野村万蔵、能(舍利)友枝雄人。②多様性(日・英字幕付)・・・7月31日。〈三番叟〉野村萬斎、能(羽衣)津村聡子、半能(船弁慶)高橋忍。③幽玄(日・英字幕付)・・・8月4日。半能(井筒)朝倉俊樹、狂言(狐塚)山本則重、能(葵上梓之出)豊嶋晃嗣。④多言語対応(日・英・中・韓字幕付)・・・8月4日。狂言(梟)大藏彌太郎、能(土蜘蛛)山崎正道。

【記念能】

◎国立能楽堂開場三十五周年記念

昨年八月から年をまたいで催された一連の記念企画の最終公演。1月5日、定例公演、能(高砂)観世鍔之丞、狂言(夷毘沙門)善竹富太郎。1月12日、普及公演、狂言(鐘の音)佐

藤友彦、能(東北)櫻間石碑。1月18日、狂言の会、(居杭)大藏彌右衛門、素囃子(黄鐘早舞)栗林祐輔・田邊恭資・大倉栄太郎、(楽阿弥)野村万蔵、復曲狂言(竹松)茂山七五三。1月25日、特別企画公演「明治150年記念 苦難を乗り越えた能楽」狂言(棒縛)山本則重、能(道成寺)観世鍔之丞。1月30日、定例公演、狂言(ぬけから)野村萬斎、能(夜討曾我大藤内)辰巳満次郎。また、1月5日〜3月21日の会期で、記念企画展「囃子方と楽器」が資料展示室にて開催された。

◎国立劇場おきなわ開場十五周年記念特別公演 狂言

2月8・9日。国立劇場おきなわ。8日、小舞(鮎)野村萬斎、(呂蓮)野村万作、(鮎)野村萬斎。9日、(川上)野村万作一調(神舞水波ノ伝)竹市学、(鮎)野村萬斎。

◎茂山千之丞襲名記念公演(東京公演)

2月10日。喜多能楽堂。(未広かり)茂山千作、茂山千三郎、松本薫。(二人山伏)茂山千五郎、茂山逸平、島田洋海。(素袍落)茂山あきら、丸石やすし、茂山七五三。(花子)童司改メ茂山千之丞、茂山茂、茂山宗彦。

◎Bunkamura三十周年記念 渋谷能

会場はすべてセルリアンタワー能楽堂。3月1日(翁)宝生和英。4月26日(熊野)中村昌弘。6月7日(自然居士)佐々木多門。7月26日(藤戸)高橋憲正。9月6日(井筒)鶴澤光。10月4日(船弁慶白波之伝)宇高竜成。12月6日、舞囃子(高砂序破急之伝)本田芳樹、舞囃子(屋島)観世淳夫、舞囃子(雪雪踏之拍子)金剛龍謹、舞囃子(安宅)和久莊太郎、舞囃子(乱)佐藤寛

奏。

◎クールジャパンパーク大阪開場記念公演祝賀能

3月1日。クールジャパンパーク大阪Tホール。〈翁〉梅若実玄祥、舞囃子〈高砂八段之舞〉片山九郎右衛門。

◎多武峰談山能

4月16日。多武峰談山神社境内蹴鞠の庭。多武峰談山能の企画としては初の野外奉納。〈翁〉観世清和、能〈百万〉片山九郎右衛門。

◎堺能楽会館創設五十周年記念公演

4月21日。堺能楽会館。狂言〈末広かり〉茂山千作、一調〈山姥〉長山禮三郎、能〈羽衣和合之舞〉大槻文蔵。

◎庄内能楽館四十周年記念特別公演

4月24日。酒田市民会館希望ホール。地元の子ども達による連吟〈鶴亀〉。解説、増田正造。仕舞〈笠之段〉辰巳満次郎、仕舞〈玉之段〉武田孝史、狂言〈舟渡鴛〉野村万作、能〈鞍馬天狗白頭〉宝生和英。

◎札幌能楽会創立六十周年記念能

7月21日。札幌市教育文化会館。能〈隅田川〉塩津哲生、狂言〈蚊相撲〉野村萬斎、能〈船弁慶重キ前後之替〉観世喜正。

◎瀬戸内しまなみ海道開通20周年記念しまなみ海道新能

7月21日。大山祇神社特設能舞台。仕舞〈松風〉大槻文蔵、狂言〈仏師〉茂山千五郎、能〈安達原白頭〉観世清和。

◎第五十回記念 神戸新能

8月1日。長田神社境内特設舞台。舞囃子〈天鼓〉上田拓司、

仕舞〈高砂〉藤谷音彌、仕舞〈松風〉笠田昭雄、仕舞〈松虫〉上田公威、狂言〈鬼瓦〉善竹彌五郎、能〈船弁慶〉上田貴弘。

◎新潟開港一五〇周年記念 第二十九回新潟新能

8月17日。新潟市白山神社。舞囃子〈融〉梅若万三郎、狂言〈樋の酒〉野村萬斎、能〈羽衣和合之舞〉中村裕。

◎狂言「ゆる乃座」60th Anniversary

10月26・30日。国立能楽堂。〈鍋八撥〉野村万作、〈樋の酒〉野村萬斎、素囃子〈高砂八段之舞〉一噌幸弘・田邊恭資・亀井洋佑・林雄一郎、〈髭櫓カケリ入〉野村萬斎。

◎大神神社能楽三輪山会館能楽堂竣功祭

11月10・13日。10日、神事 神楽浦安の舞、〈神歌〉大槻文蔵、狂言〈福之神〉茂山忠三郎。11日、神事 神楽浦安の舞、〈神歌〉観世清和、狂言〈福之神〉茂山千五郎。12日、神事 神楽浦安の舞、〈神歌〉金剛永謹、狂言〈福之神〉茂山七五三。13日、神事 神楽浦安の舞、〈翁〉櫻間右陣、狂言〈福之神〉茂山千五郎。昭和四十年に大阪南地の料亭大和屋内に建てられた能舞台を移築したもので、鏡板は前田青邨画。

◎国立能楽堂企画公演 組踊上演三百周年記念 能と組踊

国立能楽堂。11月28日、組踊「銘菊子」宮城能鳳、能〈羽衣和合之舞〉坂井音重。29日、組踊「二童敵討」眞境名正憲、能〈放下僧〉観世清和。

◎第二十回記念 芦屋能・狂言鑑賞の会

11月29日、芦屋ルナ・ホール。舞囃子〈高砂八段之舞〉長山耕三、狂言〈船渡鴛〉野村万作、一調〈三井寺〉観世喜正・久田舜

一郎、舞囃子（班女）観世鏡之丞、能（葵上梓之出）長山禮三郎。

【新しい企画公演】

◎三人の会 企画公演

3月10日。観世能楽堂。舞囃子（春日龍神）友枝真也、舞囃子（砧）坂口貴信、狂言（茶壺）山本則重、舞囃子（弱法師）川口晃平、舞囃子（熊坂）大島輝久、仕舞（頼政）観世鏡之丞、小舞（通円）山本則秀、舞囃子（松風）佐々木多門、舞囃子（天鼓盤）谷本健吾。「三人の会」観世流シテ方の谷本健吾、坂口貴信、川口晃平、「燦ノ会」喜多流シテ方の大島輝久、佐々木多門、友枝真也、「則重則秀の会」大藏流狂言方の山本則重、山本則秀、三つの会による合同公演。

◎青山実験工房

第三回「能と琉球芸能」6月24日、鍊仙会能楽研修所。Expt. A「東北」と「軒端の梅」〜組踊始祖・玉城朝薫の仕舞一考察・舞囃子「東北」清水寛二。創作舞踊「軒端の梅」佐辺良和、比嘉康春作詞・選曲、佐辺良和作舞、清水寛二仕舞指導、大野順美原案。Expt. B「芦刈」と「花売の縁」舞囃子「芦刈」清水寛二。組踊「花売の縁」山城亜矢乃、清水寛二演出、宮城能鳳立方指導、西江喜春地謡指導。

第四回「能舞台から現代の音楽／表現と能楽の可能性を創造・発信する」12月6日。鍊仙会能楽研修所。Expt. A「ロンサート／パフォーマンズ」武満徹「ピアノディスタンス」高橋アキ、武満徹「妖精の距離」甲斐史子・高橋アキ、武満

徹「悲歌 HIKARI」甲斐史子・高橋アキ、甲斐宗説「ヴァイオリンとピアノのための音楽II」甲斐史子・高橋アキ、モートン・フェルドマン「パレ・ド・マリ」高橋アキ・清水寛二・飯名尚人。Expt. B「映像／トーク」甦る 観世寿夫（生前の映像と音源でその世界を振り返る）ゲスト 渡邊守章。

◎第二回古典芸能を未来へ〜至高の芸と継承者〜能楽歌舞伎 囃子

8月28日。国立劇場大劇場。狂言と歌舞伎による三響會版〈三番叟〉野村萬斎・市川海老蔵・亀井広忠・田中傳左衛門・田中傳次郎、田中流三代による長唄素演奏〈西王母〉田中佐太郎・田中傳左衛門・田中傳次郎・亀井忠昭・亀井太一、半能〈野宮〉観世清和・観世鏡之丞・亀井忠雄・大倉源次郎、長唄素演奏〈勸進帳〉田中傳左衛門・田中傳次郎・田中流一門、舞踊〈老松〉坂東玉三郎・田中傳左衛門・田中佐太郎・田中傳次郎、能と歌舞伎による三響會版〈獅子〉片山九郎右衛門・観世喜正・市川海老蔵・亀井広忠・田中傳左衛門・田中傳次郎。

【復曲・新作など】

◎新作能（王昭君）―国境を越えて―

1月26日。たかいし市民文化会館アプラホール。7月28日、MOA美術館能楽堂。泉紀子脚本・詞章、辰巳満次郎節付・演出・主演。

◎能と土岐善麿「青衣女人」を観る

1月31日。喜多能楽堂。講演…三田誠広「東大寺と盧舎那仏」、河路由佳「歌人、土岐善麿の一九四〇年代」青衣女人「初演・再演のころ」。三浦裕子解説。新作能「青衣女人」佐々木多門。

◎第7回湘南ひらつか能狂言

2月10日。平塚市中央公民館。お話…中島源吾「鎌倉ロマンを伝える伝説の石」。独吟「伏木曾我」加藤眞悟、仕舞「小袖曾我」梅若久紀・梅若万三郎。解説…伊海孝充「曾我兄弟の伝承と能」。朗読…丹羽幸江「虎送」の見どころ」。復曲能「虎送」加藤眞悟。

◎おうみ狂言図鑑2019 新作狂言第9弾

2月17日。滋賀県守山市民ホール。〈二人袴〉茂山宗彦、〈柿山伏〉茂山千三郎、書き下ろし新作狂言「HOTEL・HOTEL」茂山逸平。作・演出…茂山童司。

◎古今狂言会

2月16日。美浜町生涯学習センターなびあす。〈蚊相撲〉野村万蔵、〈舟ふな〉石田康太、新作狂言「クロン人間」南原清隆。作…南原清隆、演出…野村万蔵。

◎新作能「たたかわざる者」ヘンリー・ソローとR・H・ブライズー

3月24日。観世能楽堂。原作…宗片邦義、作能…津村禮次郎。新作能「たたかわざる者」津村禮次郎、能「羽衣和合之舞」津村禮次郎。

◎BLUE blood 土方歳三

5月11日。ひの煉瓦ホール(日野市民会館)。仕舞「竹生島」山中遊晶、新作能「BLUE blood 土方歳三」山中遊晶作・主演。

◎籠神社御鎮座千三百年記念事業 復曲能「真名井原」

5月18日。元伊勢籠神社。仕舞「大江山」観世喜正。復曲能「真名井原」片山伸吾。小林健二校訂・補綴。片山伸吾作能・補綴。

◎金剛永謹能の会 第33回東京公演

6月9日。国立能楽堂。金子直樹解説。狂言「樋の酒」野村萬斎、復曲能「薄」金剛永謹。

◎復曲素謡「温泉寺」と観世音菩薩にまつわる仕舞を楽しむ会
8月29日、城崎国際アートセンター。独吟「田道間守」田茂井廣道、対談「温泉寺について」小川祐章・田茂井廣道、仕舞「竹生島」田茂井廣道、仕舞「田村クセ」牧野和夫、〈玉鬘〉河村晴道、復曲素謡「温泉寺」観世喜正・河村晴道・田茂井廣道・林宗一郎、仕舞「遊行柳クセ」観世喜之、仕舞「玉之段」林宗一郎、仕舞「温泉寺キリ」観世喜正。

◎第十九回静岡文化芸術大学特別公開講座 新作能「竜宮小僧」

10月10日、静岡文化芸術大学講堂。梅若猶彦作。新作能「竜宮小僧」井上真珠乃・梅若猶彦・泉雅一郎・福王和幸・井上松次郎ほか。

◎新作能上演 高虎

10月19日。滋賀県甲良町立甲良中学校体育館。新作能「高

虎)浦部好弘・浦部幸裕。作詞…有松遼一。

◎萬狂言 秋公演

10月27日。国立能楽堂。新作狂言(二人黄門)野村万蔵。磯田道史作。(粟焼)野村萬。(宗論)小笠原匡・野村万之丞。

◎創作狂言 里見八犬伝

12月7日。千葉県文化会館。(仏師)小笠原匡、創作狂言(里見八犬伝)其ノ参)小笠原匡。作・演出…小笠原匡。制作協力…千葉大学。

◎国立能楽堂企画公演

12月25日。国立能楽堂。復曲狂言(蜂)野村又三郎、復曲能(吉野琴)片山九郎右衛門。

【海外公演】

◎ジャポニスム2018能楽プログラム

2月6～10日パリ、シテ・ド・ラ・ミュージック。Aプログラム(6・9日)(翁)浅見真州・片山九郎右衛門・野村万蔵、能(葵上)浅見真州。Bプログラム(7・9日)狂言(木六駄)野村萬、能(清経恋之音取)梅若実。Cプログラム(8・10日)狂言(二人袴)野村萬、能(砧)浅見真州。日仏友好160周年を記念して開催された『ジャポニスム2018 響きあう魂』(二〇一八年七月～二〇一九年二月)の能楽公演。国際交流基金、日本経済新聞社、ハーモニー・ド・パリ主催。文芸担当(字幕等)西野春雄。千秋楽の十日には、フランス政府より野村萬・梅若実・浅見真州の三氏に芸術文化勲章が授与さ

れた(詳細は265頁)。

◎大田楽・狂言 フィンランド公演

5月18日、お神輿祭り(ヘルシンキ市内)、大田楽。5月19日、ロイフウォリ花見祭り。大田楽、狂言(雷)野村万蔵。20日、狂言公演(ヘルシンキ、オーディー図書館レジーナ講堂、狂言(雷)野村万蔵。フィンランド日本国交樹立百周年記念事業。特定非営利活動法人ACT・JT主催。

◎国交樹立百周年記念ポーランド公演

6月26日、クラクフ日本美術技術博物館。28日、ワルシャワ国立劇場。能(羽衣、能(野守)、狂言(寝音曲)。メンバー 寺井榮(団長)・浅見重好・上田公威・田邊哲久・岡本房雄・清水義也・坂井音雅・坂井音隆・坂井音晴・山中雅志・寺井千景・寺井美喜・野口能弘・大蔵彌太郎・吉田信海・成田寛人・幸信吾・安福光雄・徳田宗久。

◎宝生流 アブダビ(UAE)公演・イタリア三都市公演

6月26日マナラト・アル・サディヤット(アブダビ)。舞囃子(安宅)武田孝史、能(羽衣)宝生和英。6月28～29日スポレート(イタリア)、「スポレート第62回2つの世界フェスティバル」舞囃子(高砂)金井雄資、狂言(三番三神楽式)山本則秀、能(弱法師)宝生和英。6月30日カッターラ(イタリア)、舞囃子(高砂)武田孝史、デモンストレーション「天女の舞」能(羽衣)より」。7月3日ミラノ(イタリア)、金沢市プロモーション、宗家によるスピーチ、祝言(高砂)佐野由於。7月4日ミラノ(イタリア)「加賀宝生の能」新能、狂言

〔寝音曲〕山本則秀・山本則重、能〔羽衣盤渉〕宝生和英。

◎梅若研能会「ケルン日本文化会館50周年記念ドイツ・スイス能公演」

8月26日 チュリーリヒ(スイス)、8月29日 バーゼル(スイス)、9月1日 ケルン(ドイツ)、9月3日 ベルリン(ドイツ)。能〔乱及之舞〕、狂言〔雷〕、能〔恋重荷〕。参加メンバー(シテ方)梅若万三郎(团长)・梅若万佐晴・伊藤嘉章・加藤眞悟・八田達弥・梅若紀長・長谷川晴彦・梅若泰志・古室知也・梅若久紀・青木健一・中村政裕・梅若紀佳、(ワキ方)安田登、(狂言方)奥津健太郎・奥津健一郎、(囃子方)小野寺竜一・久田舜一郎・大倉栄太郎・大川典良。国際交流基金の派遣によるケルン日本文化会館50周年記念の主要大型事業。

◎新作能〔ヤコブの井戸〕〔長崎の聖母〕ヨーロッパ公演 2019

9月20・21日、オデオン座(ウィーン)。9月24・25日、パリ日本文化会館(パリ)。9月28・29日、ワジェンキ美術館ロイヤルシアター(ワルシヤワ)。演出・新作能〔ヤコブの井戸〕、新作能〔長崎の聖母〕、能〔高砂祝言之式〕、能〔狸々乱〕、半能〔天鼓〕、狂言〔伯母ヶ酒〕、狂言〔仏師〕。出演・清水寛二、観世鏡之丞、西村高夫、柴田稔、山中迂晶、長山桂三、安藤貴康、観世淳夫、殿田謙吉、小笠原匡、小笠原弘晃、松田弘之、林大輝、飯田清一、白坂信行、田中達、金春國直、ヤクブ・カルポルク、ニーナ・フォグ、クシシュトフ・シユチエパニャク。新作能〔ヤコブの井戸〕は初演で、作者はディートハ

ルト・レオポルド氏(心理学博士・奥日協会会長)。清水寛二節付・演出・主演。日本語台本作成は小田幸子。

◎Marie-Antoinette - Reine fascinee par les roses - 『薔薇に魅せられた王妃』マリー・アントワネット』

10月8日。パリ、オペラ・コミック国立劇場。植田紳爾脚本。植田紳爾、梅若実玄祥演出。現代能〔マリー・アントワネット〕梅若実玄祥、福王和幸、北翔海莉ほか。二〇一七年国立能楽堂にて初演、パリでの初演となった。

【その他の新しい試み】

◎横浜能楽堂企画公演「風雅と無常―修羅能の世界」第五回「無常」

2月16日。横浜能楽堂。能〔朝長〕梅若紀彰、梅若実。相国寺僧侶による観音懺法会入り。

◎狛江能楽普及会「能楽、善及人」になる講座」

1月28日、2月4・18日。狛江駅前エコルマホール。普及会のメンバーは、中村昌弘(シテ方金春流)・栗林祐輔(笛方森田流)・鳥山直也(小鼓方観世流)の三氏。結成十年目を迎えて、能楽の企画・運営する側を育成しようという目的で開催された講座。

◎大槻能楽堂改修勧進能

4月6日。大槻能楽堂。能〔安宅勧進帳・延年之舞〕大槻文蔵、狂言〔仏師〕善竹彌五郎、能〔土蜘蛛入道ノ伝〕梅若実。

◎第一回『獅子の会』

7月18日。宝生能楽堂。第一部 本公演・能(忠信)辰巳満次郎、舞囃子(鶴亀)観世喜之、小舞(七つ子)三宅右矩、一調(土車)高林白牛口二・飯島六之佐、仕舞(室君)井上貴寛、(鮎之段)谷大作、(鶉之段)出雲康雅、(夕顔キリ)寺井榮、(隅田川)久田勘鷗、(雨月前)小林与志郎、(梅枝)大坪喜美雄、(船弁慶キリ)上田拓司、小舞(祐善)野村又三郎、舞囃子(安宅延年之舞)金井雄資、狂言(二人大名)茂山七五三、半能(石橋)長島茂。第二部 乱能 還曆記念・舞囃子(高砂)野村又三郎、仕舞(橋弁慶)山本泰太郎、井上松次郎、狂言(六地藏)金井雄資、辰巳満次郎、長島茂、井上貴寛、金野泰夫、能(土蜘蛛)怪僧 守家由訓、土蜘蛛 桜井均、頼光 大倉慶乃助、小蝶 茂山七五三、従者 一噌幸弘、独武者 藤田貴寛、立衆 江野泉・飯嶋六之佐、流儀と世代をこえて、亥年生まれの能楽師が集った企画。

◎第一回喜多流養成会

8月28日。喜多能楽堂。舞囃子…(岩船)友枝大風、(花月)大島伊織、(経政)金子天晟、(鱗形)友枝雄太郎、(山姥)谷友矩。仕舞(羽衣)友枝昭世。舞囃子…(老松)高林昌司、(敦盛)金子龍晟、(湯谷)狩野祐一、(歌占)佐藤陽。先々代宗家喜多実によって催されていた「喜多流養成会」にちなみ、次代の喜多流を担う、十代二十代の若手の研鑽の場として設けられた会。

◎至高の華 蕾から花へ(第二章・二夜)

クルージュパンパーク大阪T Tホール。第一夜 若手能…

9月9日。(加茂)大槻裕一、仕舞(恋重荷)梅若実玄祥、仕舞(竜虎)赤松禎友・山崎正道、舞囃子(安宅流)川口晃平、(口真似)茂山慶和、半能(石橋)梅若基徳・梅若雄一郎。第二夜 師弟饗演・9月10日。舞踊「三番叟」若柳吉蔵、(居杭)茂山慶和・茂山逸平・茂山七五三、義太夫謡曲「二人静」井上安寿子・藤間勘十郎・梅若実玄祥、長唄「雙生隅田川」藤間勘十郎・若柳吉蔵ほか。

◎コラーージュ能による三つの情景

11月13日。石川県立音楽堂。居囃子と映像「松風」渡邊茂人・川瀬隆士。能舞とパッハ・渡邊荷之助、能とモダンバレエ「展覧会の絵」渡邊荷之助・渡邊茂人・松田弘之。

【その他】

◎熊本震災復興祈念能楽公演 大倉会「音と舞」

4月14日。くまもと森都心プラザホール。素囃子(揉之段)、素囃子(鈴之段)、舞囃子(高砂)友枝雄人、舞囃子(小袖曾我)菊本澄代・菊本美貴、舞囃子(百万)松井笙子、一調(三井寺)櫻間右陣・大倉源次郎、舞囃子(船弁慶)狩野了一。

◎能楽チャリティー公演(被災地復興、京都からの祈り)
8月29日。ロームシアター京都サウスホール。第一部…半能(高砂)河村和晃、狂言(盆山)茂山忠三郎、能(殺生石白頭)大江信行。第二部…半能(賀茂)深野貴彦、狂言(呼声)茂山千五郎、能(善界白頭)片山九郎右衛門。

襲名・その他

笛方藤田流十一世宗家藤田六郎兵衛の逝去のため、故人の遺言により藤田流宗家を二十六世観世宗家観世清和が預かり、藤田流職分会会長に六郎兵衛氏夫人の藤田貞枝が就任するところが、平成三十年十二月十四日の職分会で決定。平成三十一年一月報告された。

シテ方金剛流の豊嶋三千春が、五月十九日に彌左衛門を襲名した。

荣誉・受賞

- ◎名古屋市芸術賞芸術奨励賞 竹市学(笛方藤田流)
- ◎第40回松尾芸能賞 野村萬(狂言方和泉流)・宝生和英(シテ方宝生流)
- ◎フランス共和国芸術文化勲章シユバリエ(騎士) 梅若実(シテ方観世流)・浅見真州(シテ方観世流)
- ◎フランス共和国芸術文化勲章オフィシエ(将校) 野村萬(狂言方和泉流)
- ◎京都市文化功労者表彰 今井清隆(シテ方金剛流)
- ◎京都市芸術新人賞 大江信行(シテ方観世流)・茂山忠三郎(狂言方大藏流)
- ◎大阪文化祭奨励賞 浦田保親(シテ方観世流)
- ◎兵庫県功労者表彰 上田拓司(シテ方観世流)
- ◎とよしん育英財団教育文化奨励賞 井上松次郎(狂言方和

泉流)

- ◎日本芸術院賞・恩賜賞・新会員 亀井忠雄(大鼓方葛野流)
- ◎春の褒章 旭日双光章 前田尚廣(シテ方宝生流)
- ◎第49回JXTG音楽賞(邦楽部門) 観世清和(シテ方観世流)
- ◎文化勲章 野村萬(狂言方和泉流)
- ◎秋の褒章 紫綬褒章 杉市和(笛方森田流)
- ◎秋の褒章 旭日双光章 武田宗和(シテ方観世流)
- ◎文化庁長官表彰 旅川雅治(株式会社能楽プロ代表取締役社長)
- ◎観世寿夫記念法政大学能楽賞 山本則俊(狂言方大藏流)・小林健二(能楽研究者)
- ◎催花賞 宇高通成(シテ方金剛流)

日本能楽会・能楽協会関係

- ◎日本能楽会
- 【役員構成】
- 《会長》野村四郎
- 《副会長・常務理事》金剛永謙
- 《常務理事》観世清和・亀井保雄・豊嶋彌左衛門・粟谷能夫・山本東次郎
- 《理事》梅若実・浅見真州・金春安明・高橋忍・武田孝史・宝生欣哉・観世新九郎・亀井実・山本哲也・小寺佐七・茂山千

作(令和元年九月二十一日)逝去・野村萬斎・宝生和英・飯
富雅介・杉市和

《監事》小林与志郎・櫻間金記

【会員数】505名

◎能楽協会

【役員構成】(二〇一八年六月選任役員)

《理事長》観世鍔之丞

《専務理事》本田光洋

《常務理事》武田宗和・香川靖嗣・國川純・観世喜正

《理事》一噌隆之・井上裕久・大倉源次郎・大藏彌太郎・金井

雄資・桜井均・種田道一・辻井八郎・中村邦生・成田達志・

野村又三郎・廣田幸稔・藤波重彦・宝生欣哉・水上優・山井

綱雄・山本章弘

《監事》中村元彦・丸岡圭一・大和滋

《顧問》野村萬・観世清和・金剛永謙

【会員数】1113名(二〇一九年三月三十一日現在)

シテ 観世368 金春98 宝生163 金剛66 喜多46 小計741名

ワキ 高安12 福王16 宝生22 小計50名

笛 一噌10 森田39 藤田4 小計53名

小鼓 幸28 幸清8 大倉17 観世4 小計57名

大鼓 葛野9 高安11 大倉10 石井9 観世2 小計41名

太鼓 観世16 金春18 小計34名

狂言 大歳75 和泉62 小計137名

支部別 東京543名 名古屋87名 北陸75名 京都143名
大阪133名 神戸42名 九州73名 本部扱17名

物故者

●梅原猛

哲学者。1月12日、肺炎のため逝去。享年93。大正14年生
まれ。スパー狂言(ムツゴロウ)〈クロン人間ナマシマ〉
〈王様と恐竜〉、スパー能(世阿弥)など、能・狂言の新作を
多数手掛けたことでも知られる。

●泉嘉夫

シテ方観世流。1月13日、肺炎のため逝去。享年93。大正
15年生まれ。泉泰一朗の次男。父および大槻十三に師事。旭
日双光章受章。

●河村栄重

シテ方観世流。2月2日、逝去。享年58。昭和35年生まれ。
河村隆司の長男。山本勝一および父に師事。

●浅見眞高

シテ方観世流。2月4日、老衰のため逝去。享年93。大正
14年生まれ。浅見眞健の長男。父および武田太加志に師事。

●旅川雅治

株式会社能楽プロ代表取締役社長。3月2日、逝去。享年
63。薪能やホールでの舞台設営、会場管理など能楽公演の舞
台監督および制作で多大な貢献を成した。文化庁長官表彰を
没後に受賞した。

●三王清

大鼓方葛野流。3月19日、肺腺がんのため逝去。享年66。

昭和27年生まれ。三王禮夫に師事。

●武田欣司

シテ方観世流。3月23日、逝去。享年84。昭和9年生まれ。

武田小兵衛の次男。父および片山博通、九世片山九郎右衛門に師事。

●谷村一太郎

シテ方観世流。6月30日、肺炎のため逝去。享年85。昭和

9年生まれ。谷村直次郎の長男。橋岡久太郎および二十五世観世左近に師事。昭和47年芸術祭奨励賞受賞。

●太田宏昭

カメラマン。能楽写真家協会会員。7月15日、逝去。享年

64。写真家・村上ひろしに師事。

●石原昌和

シテ方金春流。9月1日、肺炎のため逝去。享年83歳。昭

和11年生まれ。狂言方大藏流石原昌の長男。金春栄治郎、櫻間金太郎に師事。

●茂山千作

狂言方大藏流。9月21日、睪臓がんのため逝去。享年74。

昭和20年生まれ。四世茂山千作の長男。祖父三世千作および父に師事。京都市芸術新人賞、京都府文化賞功労賞、京都市

文化功労賞、文化庁芸術祭大賞、旭日双光章。

●堂本正樹

演劇評論家・劇作家・演出家。9月23日、肺炎のため逝去。

享年85。昭和8年生まれ。著書に、『僕の新作能 堂本正樹 能楽台本集』（私家版）、『古典劇との対決』（能楽書林、一九五九年）、『世阿弥』（劇書房、一九八六年）など。また、

『能楽タイムズ』に長期連載された『番外曲水脈』や、梅若実（シテ方観世流）・大槻文蔵（シテ方観世流）との『能劇の座』での復曲上演など、番外曲の掘り起こしにも数多くの業績がある。

●木月孚行

シテ方観世流。10月23日、胸部大動脈瘤破裂のため逝去。

享年80。昭和14年生まれ。木月靖芳の四男。二十五世観世左近に師事。

●観世元信

太鼓方観世流宗家。11月10日、逝去。享年88。昭和6年生

まれ。十五世観世元継の長男。父および叔父観世元業に師事。

●横山晴明

小鼓方幸流。12月26日、尿管がんのため逝去。享年84。昭

和10年生まれ。十六世幸祥光・十七世幸正影に師事。